

～「高・清フレンドリー古道」～

第5巻

PR媒体

(紙&pdf)

名称	編集発行元 西川町観光開発 月山サポーター
「高清水通り 案内マップ」	T-FMO
(月山東南エリア西川口大ロマン古里) “月山ユートピア・ランド” 案内チラシ	T・K-Friends

[迎えてくれる花たち]



チングルマ

ハクサンイチゲ

ミヤマウスユキソウ

ミヤマリンドウ

ヨツバシオガマ

アオノツガザクラ

キンコウカ

イワカガミ

クモマニガナ

ハクサンチドリ

日本遺産 出羽三山
月山・湯殿山 参詣道 **本道寺口**

出羽三山には、八方七口と云われて来た登拝するための登り口があって、かつてはそれぞれの所に寺院や宿坊街があり、宗教集落・宿場町を形成しておりました。この「高清水通り」は、そのうちの一つであり空海が開基した旧月光山本道寺（現口之宮湯殿山神社）からの参詣登拝道であります。

近年、「大黒森プロジェクト」の活動等を通じ、本通りにも関心が高まり、道標の設置や丁石（里程標）の調査など道普請（保全・整備）に取り組み、さらなる魅力づくりを進めております。

ありふれた景観ではありまじょうが、特有の霊気漂う聖地・丁石が点在しています。安全に十分留意され、素晴らしい古道トレッキングをお楽しみ下さい。

<丁石を探そう！>

起点記念碑から“元高清水”まで96体の丁石を安置したことが判明した。令和4年11月末現在、30体の現存を確認したものの66体は未確認である。

200年の時を経て探して欲しいと待っている！

高清水通り案内マップ

折々の季節 あなたを 神秘と

不思議の世界に誘う

この参詣道は 御山行者の拠り処
よろずの神仏が塔となり 五大に宿る

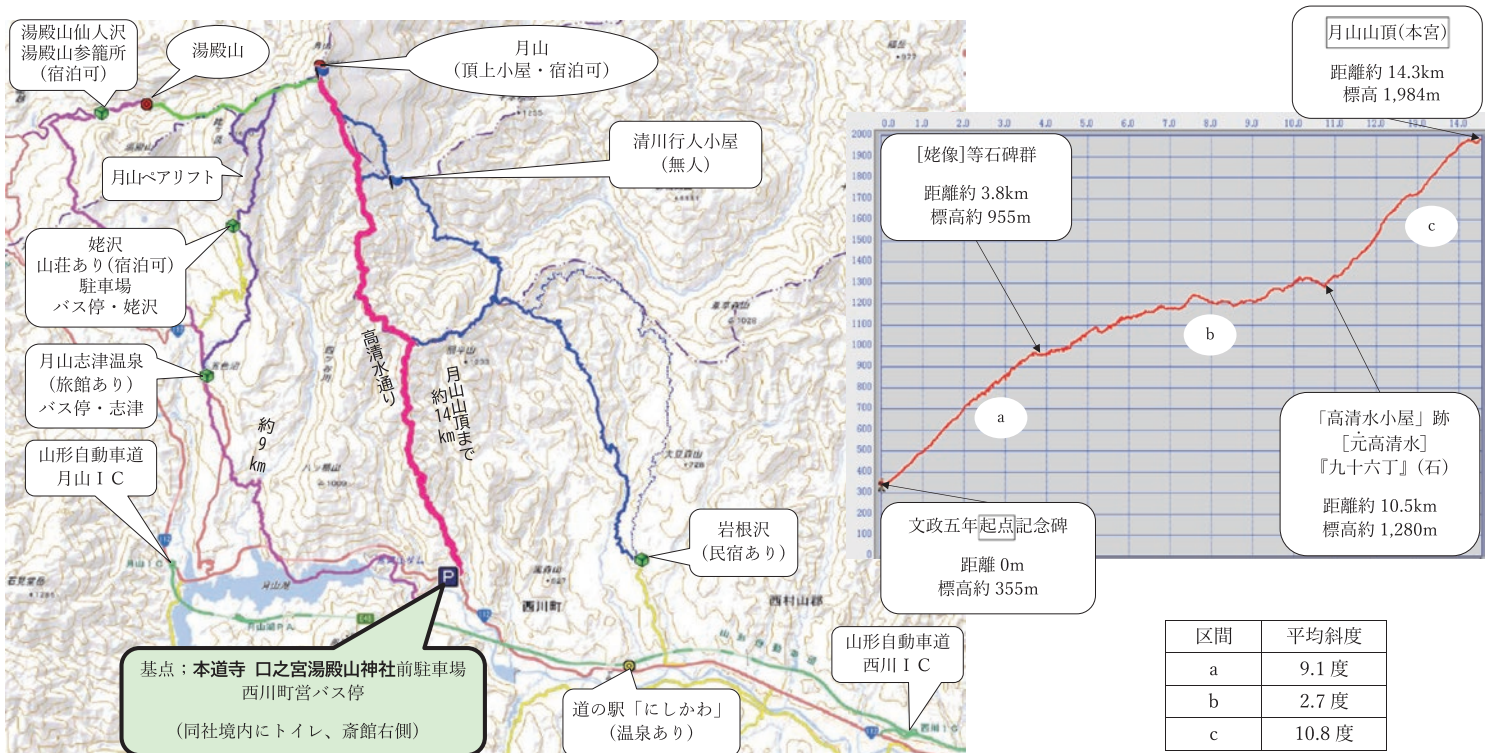
※川地・水・火・風・空



人の、本道、探し、旅

湯殿の道を踏みしめて どうあらん

【 月山・湯殿山往来ーアクセスエリア 】

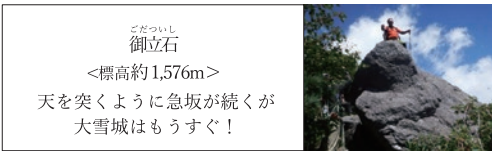


- (※1) 月山山頂小屋は期間営業
- (※2) 湯殿山往来は、高速バスと庄内交通送迎バスの組合せで期間運行
- (※3) 姥沢行きの西川町路線バスは期間運行

- (※4) 月山バリアフリーの運行は4月から10月までの期間運行
- (※5) 志津温泉行きのバスは夏季と冬季の運行時刻が変更
- (※6) 季節や社会情勢を踏まえた対応となることから事前に確認すること



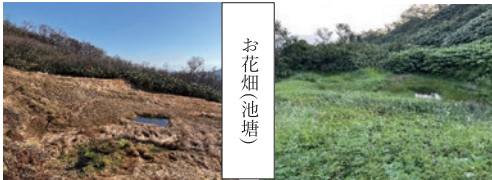
大雪城ルート沿いに『天空石橋』? <標高約 1,733m>



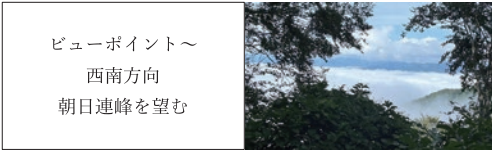
御立石 <標高約 1,576m>
天を突くように急坂が続くが大雪城はもうすぐ!



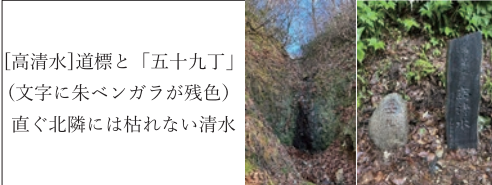
『高清水小屋』跡 [元高清水] に現存する最終の『九十六丁』(石) <標高約 1,280m>



お花畑(池塘)



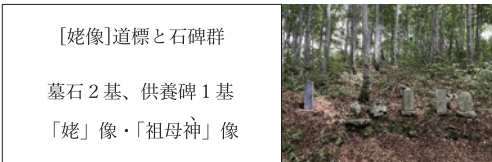
ビューポイント～西南方向 朝日連峰を望む



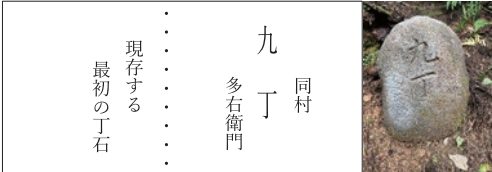
[高清水]道標と「五十九丁」(文字に朱ベンガラが残色) 直ぐ北隣には枯れない清水



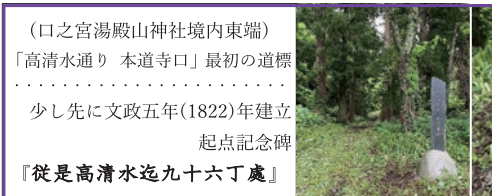
[石船]道標より西側 15mに水場 意味深な舟!



[姥像]道標と石碑群 墓石 2 基、供養碑 1 基 「姥」像・「祖母神」像



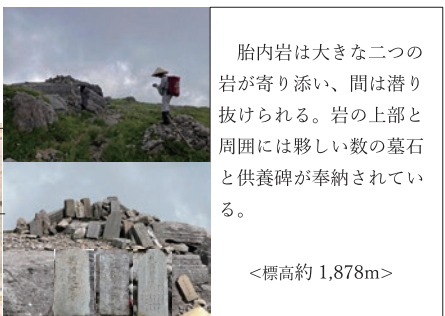
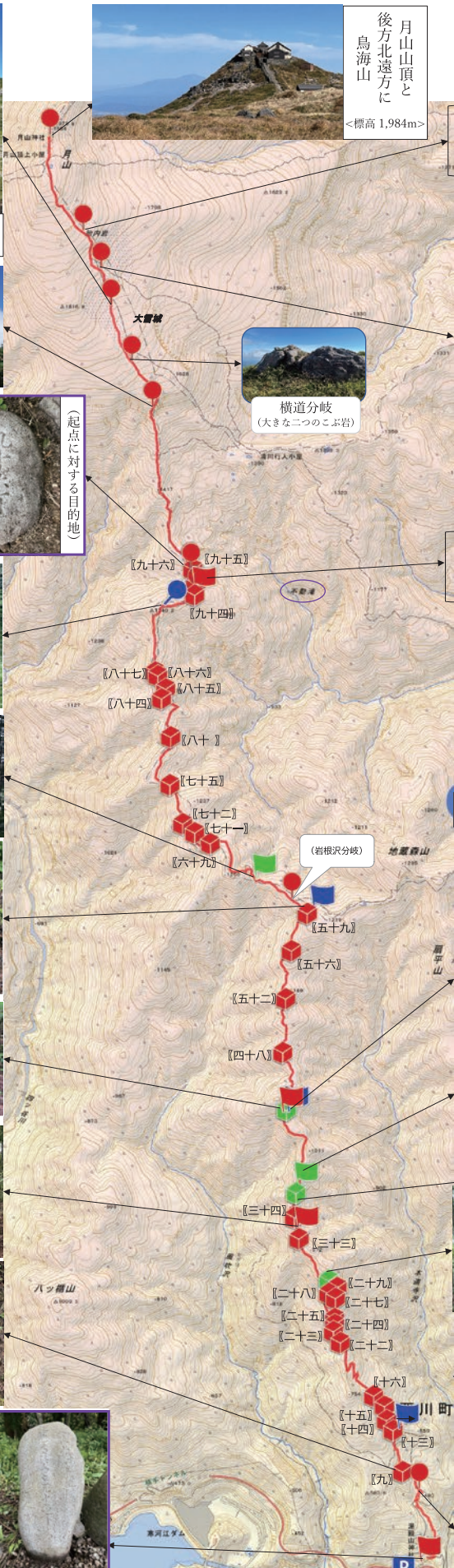
九 同村 多石衛門 現存する 最初の丁石



(口之宮湯殿山神社境内東端) 「高清水通り 本道寺口」最初の道標 少し先に文政五年(1822)年建立 起点記念碑 『従是高清水迄九十六丁處』

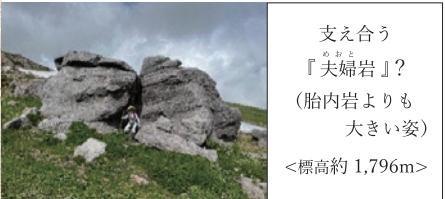


月山山頂と 後方北遠方に 鳥海山 <標高 1,984m>



胎内岩は大きな二つの岩が寄り添い、間は潜り抜ける。岩の上部と周囲には夥しい数の墓石と供養碑が奉納されている。

<標高約 1,878m>



支え合う『夫婦岩』? (胎内岩よりも大きい姿)

<標高約 1,796m>

ビューポイント～月山方面



[柴燈場]道標 <標高約 1,307m> 『柴明場』(護摩焚き祭場?)



悟りの窟行場?



ビューポイント、東方から右手の蔵王から左手へ奥羽山脈

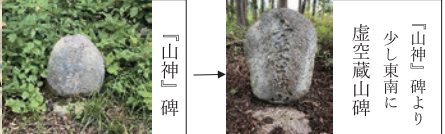


脳みそこぼる?

二股絡み?



[夫婦清水]道標と「十三丁」 手前には枯れない清水



「山神」碑より少し東南に虚空蔵山碑

(注記) 国土院地形図を使用しているが、「カシミール 3D スーパー地形セット」(開発者 DAN 杉本氏) ソフトで記録したもの。

(月山東南エリア西川口大ロマン古里) “月山ユートピア・ランド” 案内チラシ (案/精査中)



山形市内からの北西方角遠望

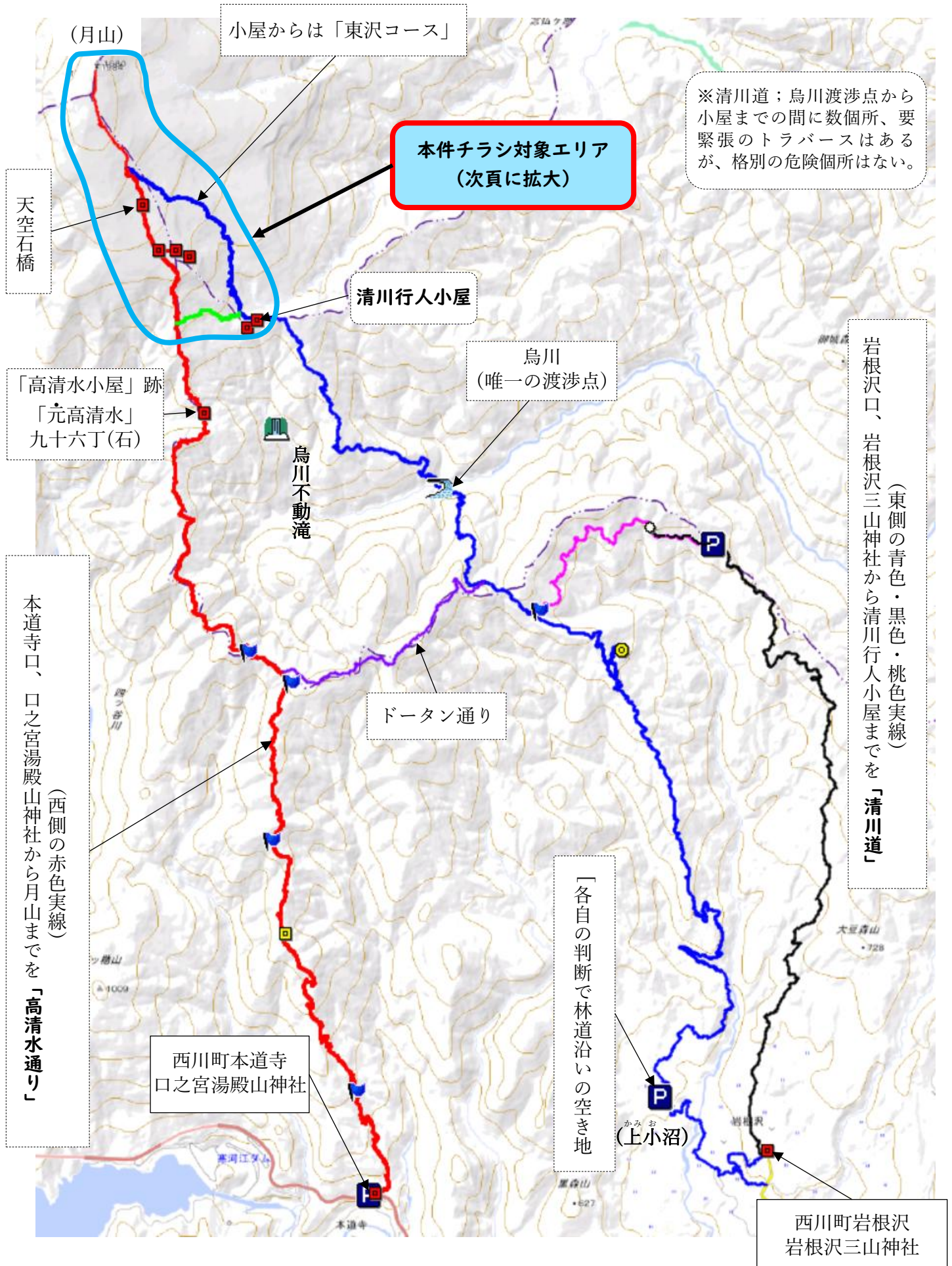
日陰の向日葵 清川道
怪しげ！何か始まる一夜宿



たかきよ
高・清は昔が匂う謎の道
遊びと学びのごちゃ混ぜ時空

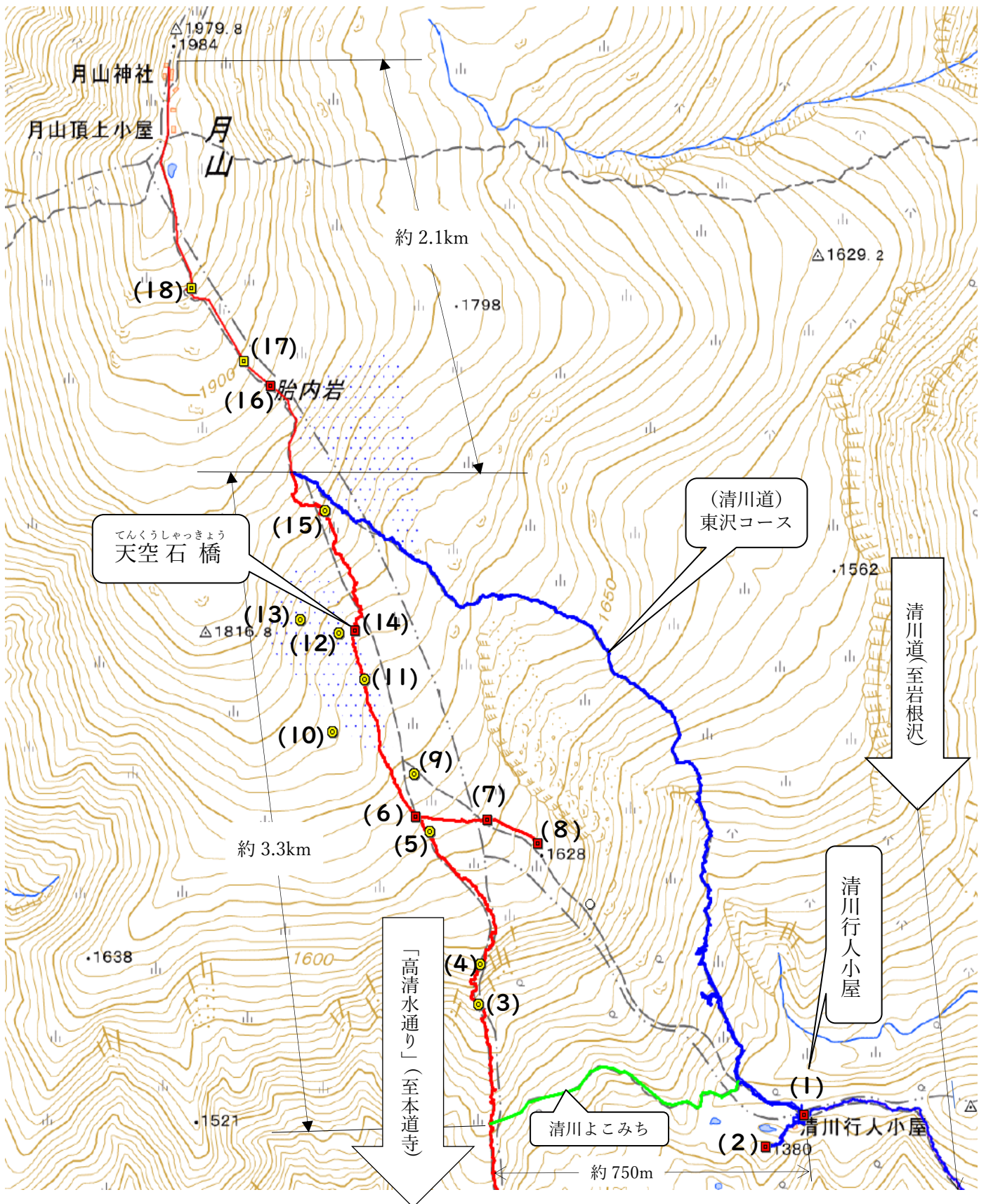
令和7年度西川町まちづくり団体活動補助金活用

「高・清フレンドリー古道」全体エリア



『月山ユートピア・ランド』不思議名所史蹟

- ✓ 下図本域で色付けした山道は、道普請に注力しており歩行可である。
- ✓ (註)「(9) 御田の神」は少し藪漕ぎを要する。「(10)「狐の砦」は本通りから眺められる。「(12)人面遥拝石」は「天空石橋」の西側にある。その他は道沿いにある。





[4] ^{ごだつし}御立石／頭部鋭角
(南東部大眺望)



②は墓石の一部か？

①右側に「岩根澤 本道寺」と刻字

[5] ①道しるべ兼(半体)地藏菩薩像
(①の上部と②の下部は不明)



[2] 清川御所王子社／五所皇子稻荷神社
(手前に墓石1体／寸詰まりの鳥居)



[3] ^{てづくし}手盡テラス／頭部平坦
(南西部大眺望)



(弘法大師像)



(墓石多数／女性戒名墓石複数体)



(右／御所王子社建立趣意刻字石塔)

[1] 清川行人小屋前石碑群



[10] 狐の砦
(岩峰群)



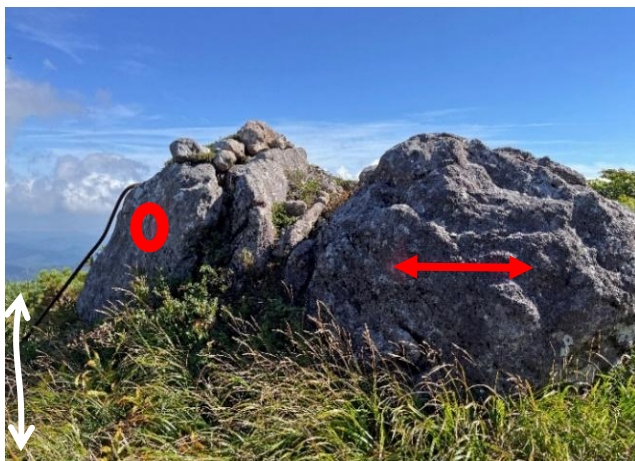
[11] 座禅石
(手前に階段状石)



[8] 来名戸神^{くなど}
(地藏菩薩像と女性戒名墓石3体)



[9] 御田の神
(二人の後方の窪み)



[6] 横道分岐目印二つこぶ岩
(丸・高清水通り、矢印・横道方向マーキング)



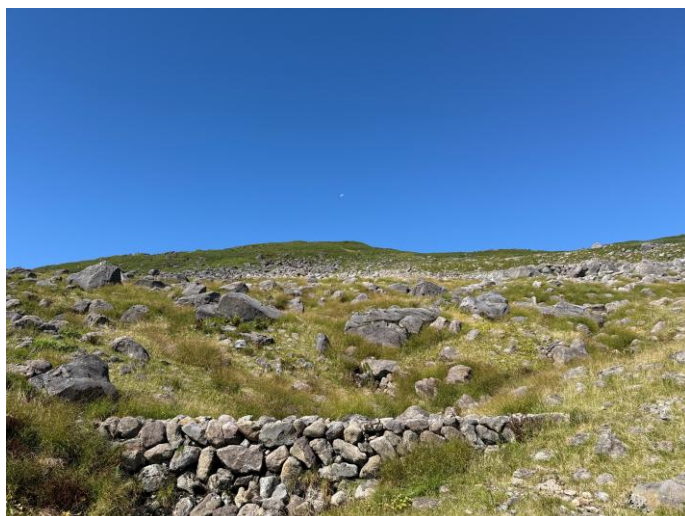
[7] 追分碑
(右 月山 羽黒山 左 湯殿山 牛首)



[15] 夫婦岩
(内部に空洞部)



[16] 胎内岩／内部に空洞部
(数多の墓石・供養碑、女性戒名墓石も多数)



[14] 天空石橋 しゃつきょう
(石造堰堤にも見える 左は南方、右は西方を望む)



[12] 人面石 しゃつきょう 橋 遥拝石
(現地で一目、人面)



[13] 万年雪
(年によっては消える)



[17] 竹の塚古墳
(五輪塔の火輪?)



[18] 墓石 2 体
(右側「風月姉清禪定尼ノ女」と刻字)

清川行人小屋や月山頂上小屋を拠点に、 立寄り散策、周遊して、不思議なものと対面しよう！

この域は、出羽三山全体俯瞰の上で、他の域にも負けず劣らずの聖地である。そこで、ここらを「(月山東南エリア西川口大ロマン古里) 月山ユートピア・ランド」と称する。

多くの人達に知って欲しい、現地に行き対面して欲しい、拝んで欲しいと切望しています!!!

このエリアに分け入る皆様にとって心強い拠点設備が2階建造りの^(※1) 清川行人小屋である。^(※2) 夏期間は冷たい水を屋内の炊事場に引き込んでいる、トイレは大小用二つある、薪ストーブ(薪材は小屋内玄関にあり、少なくなれば備付の鋸・鉋で利用者が作る)がある、相応の布団と毛布を用意している。ここを拠点に周遊すれば知的好奇心がくすぐられ、楽しみ・面白さが深みを増すだろう。

(※1) 無人、利用協力費 1 千円/人、管理者=清川仙人会(連絡先;片倉忠幸 090-1067-4225)

(※2) 冬期間は万が一の凍結を想定し、建物外に水を出している。

また、月山頂上小屋は、夏期間は管理人常駐で営業している。

さて往古を偲ぶ、本道寺行者ぎょうじゃは旧本道寺を起点に高清水通りを北上し、湯殿山あるいは月山を目指した。岩根沢道者どうしゃは旧日月寺を起点に清川道を北上し、湯殿山あるいは月山を目指した。旧本道寺は開創依頼始終真言宗に帰依したものの、江戸期のある時期からは月山(南半分)の別当職を務めた。旧日月寺は開創直後真言宗であったものの江戸期のある時期から天台宗帰依に改宗した。

すると、横道分岐目印二つこぶ岩や^{しゃっきょう}天空石 橋 手前の合流点においては、時には両者、行者と道者は接近交差・交錯・交流した可能性大である。その場では信仰や法流（宗派ごとの参詣全般に係る決まり事や仕来たり）を巡って口論したものだろうか？ いやむしろ先達を含めて談笑したことだろう。何時の世も里においては個人、あるいは集団のエゴを剥き出して対立に向かう点はあるが、^{かみ・ほとけ}神 仏の御座す神聖な御山にあっては、人間の逆しまなエゴは雲散霧消し親睦和合に向かうものだ。交差点は今も昔も人々が出会い、離れて別れる、会者定離・愛別離苦の悲喜交々の結合点である。この界限は古来、今の西川町のキャッチフレーズ「ごちゃ混ぜ」を先取りしていたみんなの祭り（祀り）の時空間、情報交換の場であったのだ。こんなにも摩訶不思議な魔物達が潜む本フィールドから浮かぶ全貌は、この大地をW体（ジェンダー女 Woman）とし、^な天空からはその母体を目指したM体（ジェンダー男 Man）が降臨し、いわば、精霊接触、陰陽感合の中に天地人融合の生せる技だが常識外の様相（光景・様態）を顕現せしめ、このような名所・史蹟を生んだのだろう。それらは何かを語り掛けて来る、新たな心の胎動の予感を兆す、まさに、今昔を問わず精神文化を育む今でいう「ごちゃ混ぜ^{crossing}クロッシングエリア」、今様の金胎曼荼羅ブースなのだ。交差点は、集合の視点からは無境界平等点、万事凝縮ゼロポイント、発散の視点からは新創造基点、万象萌芽原点となるのである。月山を目指すのみのピストン・ピークハント登山では物足りないだろう。

これらの珍奇な様相は何をものがたるのか、大いに思索・想像しながら歩いてみよう

